

GPS 安全性要約書

カルコール 8665

この製品安全性要約書は、一般社会へ化学物質の安全性情報の概要を提供するものです。この文章は、サプライヤーから提供される、用途毎に推奨される詳細な安全措置について記載されている安全性データシート SDS に代わる文書として作成されたものではありません。また、製造者から提供される、この物質を含む消費者製品の使用説明書や警告に代わるものとして作成されたものでもありません。記載内容は、現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいておりますが、いかなる保証をなすものでもありません。

1. 物質の特定名

商品名: カルコール 8665

化学名: 脂肪アルコール C16～C18

CAS 番号: 67762-27-0

2. 使用・用途と適用

カルコール 8665 は長鎖脂肪族アルコールで、産業分野において化学合成のための中間物質として使用されています。カルコール 8665 の使用は産業分野の化学合成に限定されており、一般消費者向けには販売されていません。

3. 物理化学的特性

この物質に物理化学的危険性は認められません。

特性	値・性状
物理的状態	固体
色	白色
臭い	わずかな（若干）特異臭
pH	測定不可
密度	0.813 g/mL (80 °C)

粘度	情報なし
融点	52 – 55 °C (流動点)
沸点	情報なし
引火点	177 °C (クリーブランド開放式測定器)
可燃性	情報なし
爆発性	情報なし
自然発火温度	情報なし
蒸気圧	情報なし
水への溶解性	不溶
オクタノール/水分配係数(log Kow)	情報なし

4. ヒト健康影響

消費者: カルコール 8665は産業分野での使用に限定されるため、消費者への暴露はありません。
 作業員: カルコール 8665は繰り返し暴露による毒性は示さないと考えられます。

アセスメント項目	結果
急性毒性：経口/経皮	実使用上、経口/経皮暴露後の毒性はありません。単回暴露後に、特定の臓器に対して毒性を示すこともありません。
刺激性/腐食性：皮膚/眼	入手可能なデータから、刺激性はほとんどないと考えられます。
感作性	入手可能なデータから、皮膚感作性はないと考えられます。
繰り返し暴露による毒性	実使用上、長期または繰り返しの経口暴露により毒性を示さないと考えられます。
遺伝毒性	入手可能なデータから、遺伝毒性はないと考えられます。
発がん性	入手可能なデータから、発がん性はないと考えられます。
生殖発生毒性	入手可能なデータから、生殖発生毒性はないと考えられます。

5. 環境影響

入手可能なデータでは、カルコール 8665の水生生物に対する毒性影響はありません。水環境への放出量は少ないと考えられます。また、C16～C18 脂肪族アルコールは環境中で天然に存在することも知られています。さらに、公共の排水処理施設や広域環境中での微生物による生分解は、早くまた効果が高いことが知られています。また、PBT/vPvB には該当しないことから、食物連鎖による濃縮は起こらないと考えられます。

アセスメント項目	結果
水生毒性	毒性影響はありません。
生分解性	容易に生分解されます。
PBT / vPvB 注)	PBT/vPvB に該当しません。

注)

PBT = Persistent, Bioaccumulative and Toxic (残留性・蓄積性・毒性を有する物質)

vPvB = Very Persistent and Very Bioaccumulative (高残留性・高蓄積性を有する物質)

6. 暴露

ヒト健康

カルコール 8665 は産業分野での使用に限定されるため消費者への暴露はありません。しかしながら、希釈されていないカルコール 8665 に接触する可能性のある作業者は **Safety Data Sheet** にて推奨されている安全上の対応策を取らなければなりません。カルコール 8665 を含む製剤を扱う施設では、その用途に関わらず、安全な取り扱いを確実にするために、標準的な工学技術制御と手順が準備されていると考えられます。さらに、定常業務の間、化学物質の皮膚や眼への直接的な接触を避けるために、ゴーグルや保護メガネ、手袋、安全靴、ヘルメットなどの標準的な個人保護具を装着しなければなりません。カルコール 8665 や類似の化学物質に対しては、多くの耐化学薬品手袋が良好な保護特性を示すことが知られています。環境経路によるヒトへの間接的な暴露は、地域的なバックグラウンドに依存します。EU では、C16～C18 脂肪族アルコールは消費者製品に広範囲に使用されていますが、C16～C18 脂肪族アルコールが消費者へ暴露される量は安全なレベルと考えられています。EU における広範囲な消費者製品への使用により直接的な暴露量は環境経路の間接的な暴露量よりも多くなることから、このバックグラウンドの暴露量はそれほど重要ではないとされています。

環境

水系の製品（配合成分として水を多量に含む製品）から大気への放出は最小限と考えられます。工業的なプロセスの一部ではこの物質は排水中に排出されるため、環境排出はほぼ 100% が排水と考えられます。排水の処理方法の詳細は処理場や処理方式により異なるものの、一般的にはオンサイトもしくはオフサイトによる 2 次的な生分解処理が行われます。固体となった廃棄物は、埋め立てや焼却により廃棄されます。

7. 推奨リスク管理措置

推奨リスク管理措置の詳細については、**Safety Data Sheet** を参照して下さい。

化学物質を使用する際には、適切な換気がなされていることを確認して下さい。手や皮膚の保護のために適切な耐化学薬品手袋を常に着用し、眼の保護具を装着して下さい。化学物質の取扱い、処理、保管をする場所では、飲食・喫煙をしないで下さい。化学物質に接触した後は、手や皮膚を洗って下さい。皮膚（または髪）に付着した場合、多量の水と石鹸で洗って下さい。眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗い、次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けて下さい。皮膚刺激、眼刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けて下さい。

この物質を含む排水は、この物質を除去するため、排水処理設備を通さなければなりません。大気中への放出は予想されないため特別な措置は必要ないと考えます。

8. 法規制情報/分類・ラベル情報

GHS に基づき、この物質はその物理特性、ヒト健康、環境への危険有害性に従って分類されています。この危険有害性の情報は特定のラベルと **Safety Data Sheet** によって伝達されています。GHS では化学物質の暴露が想定される対象者（作業員、消費者、輸送業者、緊急時の対応者）が、扱う化学物質の危険有害性をより理解ができるように努めています。

分類・ラベル情報:

この物質は、ヒトや環境に有害な影響を及ぼす物質に分類されません。

9. 結論

カルコール 8665 は生産現場において管理された状況下で使用されています。カルコール 8665 の生産や使用は、**Safety Data Sheet** に従って取り扱いを行う限り、ヒトや環境へのリスクをもたらしません。

10. 連絡先

この物質・安全性要約書に関する、詳しい情報については以下にお尋ね下さい：

会社名、部署 花王株式会社, ケミカル事業ユニット

電話番号 03-5630-7601

ファックス番号 03-5630-7964

電子メール chemical@kao.co.jp

追加・関連情報に関しては国際化学工業協議会のポータルをご覧ください（<http://www.icca-chem.org/en/Home/ICCA-initiatives/global-product-strategy/>）

11. 用語集

急性毒性	単回暴露による有害な影響
生分解性	環境における物質の生物学的分解性
生物濃縮性	環境における物質の濃縮性
発がん性	がんを引き起こす作用影響
慢性毒性	繰り返し暴露による有害な影響
GHS	化学品の分類と表示に関する国際調和
ハザード	ヒト健康や環境への有害性
変異原性	遺伝子に変異をもたらす影響
生殖毒性	催奇形性、胚毒性及び、繁殖性への有害な影響
感作性	アレルギー誘発性

12. 発行日

2017年12月22日